

第一回休暇改革国民会議における討議の概要①

【総論】

- ・日本の経済社会は停滞感があり、活性化する意味合いではこのような面から揺り動かしてみるのも大切。
- ・十分な周知期間や試行を増やしてみるなどして、まずはやってみたらどうか。
- ・国民的な総論としての合意や支持を広く取りつけてから実行に移すべき。
- ・地域や個々の事業体において、ある程度融通性や自由度が担保できるような制度設計にしてもらいたい。

【現在提示している休暇取得の分散化の案に関する懸念・課題・提案】

- ・全国展開企業においては、業務効率が低下することや、労務時間が長くなることによる企業の経費負担が増加することを懸念。
- ・観光業においては、常時雇用増加の期待の一方、優勝劣敗が進むという危惧。
- ・資金決済の停滞による中小企業の資金繰りへの影響や、金融市場の公平性担保への懸念。
- ・金融機関が休日営業する場合、従業員が家族の休暇と一致しなくなる。
- ・子どもと親と一緒に休める日が減ることや、単身赴任や遠距離通勤家庭において、家族の休暇が合わなくなる。
- ・両親が仕事を持っているケースにおいては、誰が子どもの面倒をみるかという問題が生じる。
- ・まず学校休業日の分散化を行い、それに合わせて企業・役所が休暇を取るよう働きかける。
- ・祝日の意義、扱い方について、十分留意すべき。
- ・トップが責任を持って有給休暇を取るなど、有給休暇の取得促進を併せて行うべき。
- ・自然、季節的な観光資源を持つ地域や神事、仏事の祭事が行われる地域が対応するための環境整備が必要。
- ・一人ひとりの国民生活や、日本の将来へのプラス面について具体的にPRする必要。
- ・GWと秋のシルバーウィークを2つ程度の地域に分けてみる。大型連休の前後1週間を2, 3の地域に分けて学校の休みをつくる。実証実験の実施。

第一回休暇改革国民会議における討議の概要②

休暇と働き方・ライフスタイル

- ・ワーク&ライフは一緒になければならず、バランスが大事。
- ・必要以上の残業は効率や生産性が下がる。
- ・休みを増やすと同時に、仕事の効率アップを図るべき。
- ・休暇取得は労働時間を自己管理することになり、イノベーションにもつながる。
- ・子どもを持つ親が子どもの休みにできるだけ有給休暇を取りやすくすることが大切。
- ・単に休暇を取るのではなく、子どもたちが幸せになるような受け皿をつくるべき。

休暇の活用

- ・休暇を有意義に取るためにも、目的を持って休暇をつくるのが大切であり、受け入れ側の計画性も考える必要。
- ・休むためのシステムの中で、どう時間を過ごしていくかということも併せて議論する必要。休暇の過ごし方によって、生活を充実したものにする。
- ・まとまった休暇が取れば、ボランティアや地域活動、家族の時間等、様々な活動に取り組むことができる。
- ・家庭の教育力を回復するため、有給休暇がきちんと取得され、親が子どもと会話する時間を確保することが必要。
- ・教育制度の中で、自由な時間の使い方について、学校や企業などの各組織があわせて議論するべき。

みんなで取り組む休暇改革

休暇を楽しむライフスタイル
家族との時間
家庭の教育力の向上



連続休暇の確保に向けた取組



国民

労働界

【最初の課題】
休暇に関する意識改革



国民運動へ

教育界

学校休業日の
多様化・柔軟化



経済界

余暇活動をビジネス
チャンス・雇用創出に
経営に効く休暇

自治体

魅力的な地域づくり
人と地域とのつながり



国

休暇取得の地区別分散化案
家族の時間づくりプロジェクト
有給休暇取得促進

休暇取得の分散化(案)

- 国内旅行は約20兆円の市場であるが、休日がGW等の一定期間に集中するため繁閑の差が大きく、顕在化しない内需が多い。
- 「財政出動を伴わない成長戦略」として、休暇分散化による需要の創造・平準化を通じ、地域経済の活性化、サービスの向上、雇用の安定化など幅広い効果の実現を目指す。

休暇取得分散化に向けた取組方策の例

○観光立国推進本部・休暇分散化ワーキングチームにおいて、休暇取得の分散化に向けた具体策を検討。

A案 春の大型連休の分散

みどりの日(5月4日)、こどもの日(5月5日)、成人の日(1月の第2月曜日)を一つのまとまりとして、地域ブロック別に分散。

※現行の祝日はそれぞれ記念日として残す。

【GWの地域別分散のイメージ】 2010年5～6月の例

	日	月	火	水	木	金	土
5月	2日	3日 憲法記念日	4日	5日	6日	7日	8日
	9日	10日	11日	12日	13日	14日	15日
	16日	17日	18日	19日	20日	21日	22日
6月	23日	24日	25日	26日	27日		
	30日	31日	1日	2日	3日	4日	5日
	6日	7日	8日	9日	10日	11日	12日

※注釈: 5月4日(みどりの日)と5月5日(こどもの日)は「現行の祝日(休日ではない)」として扱われ、5月11日(九州・沖縄・中国・四国)の休日は「九州・沖縄・中国・四国」の休日、5月18日(近畿)の休日は「近畿」の休日、5月25日(中部・北陸信越)の休日は「中部・北陸信越」の休日、5月31日(南関東)の休日は「南関東」の休日、6月7日(北海道・東北・北関東)の休日は「北海道・東北・北関東」の休日、6月27日(成人の日、みどりの日、こどもの日)の休日は「成人の日」、「みどりの日」、「こどもの日」の休日を地域ブロック別に分散。

※分散する時期を全体で2.5週とする方策例も検討

B案 秋の大型連休の創設

ハッピーマンデーのうち、「海の日」、「敬老の日」、「体育の日」を従来の日に記念日として戻しつつ、休日については、観光、スポーツ、文化活動等に適した秋の時期に地域ブロック別に分散。

【秋の大型連休の創設イメージ】 2010年9～10月の例

	日	月	火	水	木	金	土
9月	26日	27日	28日	29日	30日	1日	2日
	3日	4日	5日	6日	7日	8日	9日
10月	10日	11日	12日	13日			
	17日	18日	19日	20日	21日	22日	23日
	24日	25日	26日	27日	28日	29日	30日

※注釈: 9月27日(北海道・東北・北関東)の休日は「北海道・東北・北関東」の休日、9月4日(南関東)の休日は「南関東」の休日、10月11日(中部・北陸信越)の休日は「中部・北陸信越」の休日、10月18日(近畿)の休日は「近畿」の休日、10月25日(九州・沖縄・中国・四国)の休日は「九州・沖縄・中国・四国」の休日、10月10日(体育の日(記念日として設定))の休日は「海の日」、「敬老の日」、「体育の日」の休日を地域ブロック別に分散。

※分散する時期を全体で2.5週とする方策例も検討

期待できる効果

混雑緩和で2.8兆円の新規旅行需要

【春のゴールデンウィークの分散化】

- (実績)平成22年GWの国内旅行消費額 **約1.4兆円**
- (新規)混雑緩和による新たな国内旅行需要 **約1兆円**

【秋の連休の設定】

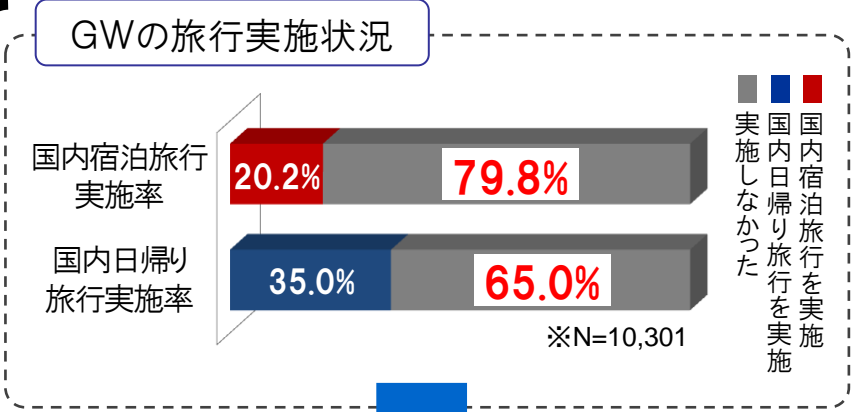
- (実績)平成21年SWの国内旅行消費額 **約1.4兆円**
- (新規)新たに創出される国内旅行需要 **約1.8兆円**
※精査中

需要平準化の効果

消費者	ピーク需要の平準化による旅行料金の低廉化	同じ費用で3回旅行に
	交通渋滞や混雑の緩和による移動時間の短縮化	もう1ヶ所観光できる
地域	環境負荷の軽減、混雑解消によるインフラ投資の効率化	ムダな投資の回避
	観光地における雇用の安定化	正規雇用の増加
事業者	生産性の向上、サービス水準・ホスピタリティの向上	快適なサービス

→ 旅行満足度の向上、リピーターの増加
観光地の評価の向上
潜在需要の喚起(高い料金や混雑を敬遠していた層)

※観光庁「GWにおける観光旅行」調査より。
調査概要:2010年①4月3日～6日及び②5月15日～16日の期間において、1万人以上を対象にインターネット調査を実施。



Q: GWにおける混雑が緩和されれば、国内宿泊旅行に行くとお考えですか？

